

## 施政方針

### 23年度予算の重点政策を問う

### 県と市町村の抱える課題は同じ

／町長



にしむら さくお 西村 策雄 議員

育成。インフラの充実活用のために普通建設事業として、特に道路予算で重点配分となっている。

教育については教員の加配、

放課後子ども教室、到達度調査の実施を行う。防災については避難タワーや避難道の整備を行う。長寿県構想などについては、県と意思疎通を密にして政策提案していきたい。

**問** 県は県勢浮揚と産業基盤の底上げのため、5年ぶりに大幅な増額予算を組んでいる。黒潮町の当初予算にも、詳細な施策は見られるが、県との連携と財政マネジメント、また事業とのバランスについて聞きたい。

**答**

大西町長

県と関連した予算に産業振興推進総合事業。地域産業の

### 護岸工事

護岸通行上の安全対策は  
幡多土木と協議したい  
／建設課長

**問**

佐賀の伊与木川下流で河川

改修が行なわれている。旧佐賀大橋上流の左岸は昔から馬路や作業道であった。それが今の護岸となった現在は、生活道や通学路、また道路でもあるが転落防止対策はできないか。

**答**

武政 建設課長

寺井堰下流の護岸管理は、高知県が行なっている。洪水等の河川水の浸入を防ぐ護岸のかさ上げと、河川管理のための拡幅工事である。この道は佐賀橋からくる鉄の駅へのルートであり、交通安全対策を幡多土木と協議をして対応したい。

### 地下水源

水源と歴史を守れ  
飲料水確保問題なし  
／建設課長

**問**

佐賀の坂折前の河川敷は昔から地下水の湧水地帯として

水神竜神をまつり、地域の代表たちの浄財で氏神を建立したと伝えられている。近年宮んなるといふ所は公園になっているが、河床を毎年掘り返している。地下水が濁る事はないか。また22年までの歳出額はいくらか。

**答**

武政 建設課長

旧佐賀町時代、伊与木川地下水調査が行なわれ、結果をもとに考察すると、地下20mまで第二帯水層の水源を粘土層が覆っているため、現状では河川水を浸透させない遮断層があり飲料水の確保は十分である。河川工事これまで7億2千3百万円。坂折公園事業に8百24万円。

### 造成工事

中角造成地の坪単価は  
今後決定する  
／町長

**問**

中角インター予定地で、住民移転先の造成場所では分譲の時期によって坪単価が変わるのではないかと。過疎法の起債の金利加算はないのか。高規格道路の拳ノ川佐賀間を県費で施工するように知事に申し入れてはどうか。

**答**

大西町長

武政 建設課長

この工事での交付金事業は平成22年度で終結したが、換地業務が残っており今後、総工事費の額が確定していない宅地の鑑定費用を考慮して分譲価格を決定する。坪単価に金利加算はない。拳ノ川佐賀間は知事と検討の結果、整備はできるものの租税免除が受けられないため町は選択できなかった。